特定非営利活動法人
シビルNPO連携プラットフォーム

CNCP通信 Vol 59

平成 31 年 3 月 12 日発行

●CNCP はあなたが参加し楽しく議論し活動する場です●

シリーズ「土木ということば」

第 11 回 「建設」ということば

東京国立博物館で「顔真卿」展を見た。特別展示 177 点の名筆の中に 14 世紀初頭元の時代、蘇州の道教寺院玄妙觀の三門を修復した由来を記した『楷書玄妙觀重修三門記巻（趙孟頫筆）』があり、約 500 文字の碑文の中に「建設」と「土木」の文字があった。「是故建設琳宮」と「土木云乎哉」は訳すと「そのため琳宮を新しくつくった」と「土木（建物）のことであろうか」である。［注：東京国立博物館の画像検索「三門記」入力で閲覧可能］

「建設」は、五経の一つ前漢時代の『礼記』祭義篇の「建設朝事（朝の祭事を用意し整える）」が初出とされ、新しい仕組みや組織をつくることの意味で、また構造物を新たにつくりあげる意味にも用いられる。この碑文では、「建設」がつくること、「土木」がつくられたものとの使い分けになっている。

その頃の日本は鎌倉時代後期で寺社をつくる「造営奉行」、殿舎をつくる「作事奉行」が幕府の職制に置かれ、「建設」の用例を見つけることはできない。

幕末になって、横浜の週刊英字新聞『Japan Commercial News』を翻訳筆写した『日本貿易新聞（柳川春三）』第 73 号 1864 年 8 月 28 日発行に「鎮台を置ける処へ、相応の外国ミニストル館を建設せられん事を取計はん為に、」とあり、これが新たにつくりあげる意味の「建設」の日本初出である。

それまでは「たてる」（立・建）がたとえば『万葉集』に、「つくる」（作・造）が『古事記』にあるように共に古くから現代へと続く和語が優勢であったため、明治期の漢語の流行までは「建設」の使用が限られていたことによる。　（土木学会土木広報センター次長 小松 淳）

Vol.59 コンテンツ

巻頭言	一周遅れの先頭	吉川 良一	2
コラム	フランクルの人間性心理学と自己超越性	皆川 勝	3
土木と市民社会をつなぐ	第３回　土木と市民社会の溝はどうしてできる？	田中 努	4
部門活動紹介	シビル NPO 推進小委員会の活動	柴田 勝史	7
会員からの投稿	世界の古代文明を継承する日本文化について	山下 正章	9
サポーターからの投稿	インフラメンテナンスにおける市民参画に向けた啓発方策	小川 航太	10
事務局通信			12